

第52回郡山市子ども・子育て会議（書面）委員からの意見と回答一覧

No.	委員氏名	役職等	議題1 郡山市放課後児童クラブ指定管理者候補者の選定について（報告）	
			意見の有無	意見 回答
1	吾妻 利雄	郡山市認可保育所長会 会長	有	<p>①候補者が郡山市で活躍している事業者でないことを残念に思う。統括責任者は放課後児童クラブに精通している方の配置を求めたい。</p> <p>②放課後児童クラブは小学校の活用も多いため、校長との連携にも充分配慮してほしい。</p>
2	佐藤 一夫	福島県ユニセフ協会 事務局長	無	
3	佐藤 広美	NPO法人 子育て支援コミュニティ ブチママン 理事長	有	<p>①一括の指定管理により、放課後児童クラブ支援員の専門性向上と、地域差無く子ども達への充実したプログラムの実施を期待する。</p> <p>②家庭への「子育て支援」につながる取り組みを期待したい。（お弁当の提供・家事お手伝いを促すプログラム・働く保護者向けの講座）</p> <p>③定期的な利用者アンケートの実施により、サービス向上と事業評価に努めてほしい。</p>
4	鈴木 綾	NPO法人 こおりやま子ども若者ネットワーク 理事長	有	<p>人材確保について具体的で実効性のある提案内容が示されているとのこと、安心している。既存の支援員の経験を活かし雇用を継続することは、子ども達へ良い影響を与えらると思う。今後も継続雇用が守られるよう切望する。</p>
5	隅越 誠	一般社団法人 郡山医師会 理事	無	
6	先崎 洋子	郡山市民生児童委員協議会 児童福祉活動部会会長	有	<p>候補者は全国で事業を展開している事業者とのことなので、地域に適した指導・運営ができると期待する。現在雇用している支援員の雇用を最優先する等地域雇用を考慮してほしい。児童へ不適切な指導・言動のないようお願いしたい。</p>

【こども政策課】

指定管理者候補者に関する意見等及び事務局回答については、委員各位へ共有しました。

第52回郡山市子ども・子育て会議（書面）委員からの意見と回答一覧

No.	委員氏名	役職等	議題 1 郡山市放課後児童クラブ指定管理者候補者の選定について（報告）	
			意見の有無	意見 回答
7	高橋 智樹	公募委員	有	<p>【質問】</p> <p>①募集要項の選定基準(1)～(7)の中で、【提案事業】【自主事業】はそれぞれどこに含まれるか。</p> <p>②候補者における「施設の効用の最大限の発揮」とは具体的にどのようなことか。</p> <p>③候補者における「地域経済への配慮」が優れているとは具体的にどのようなことか。</p> <p>④候補者は「経営上の基盤」や「人材確保やキャリア形成」、「東京の本部のバックアップ体制」が優れている、とのことだが、今回ポイントにあげられていた、質的拡充のための「児童の体験活動の充実」「地域との連携」については具体的にどのような取り組みがされているか。</p> <p>⑤郡山市内からの申請団体があれば、上記の質的拡充の点においてはどのような差があるか。</p> <p>【意見】</p> <p>地域で子ども達を支える、支援する形が本来あるべき姿で、その形が薄れた結果、魅力のない街や虚待やいじめの増加にもつながっていると感じている。</p> <p>今回の指定管理では、安定的な運営ももちろん大事だと思うが子ども・子育て会議でもあったように「地域との連携」も大事にしてほしいと思う。</p> <p>私の周囲からは、今の市政は「効率重視」のために首都圏の大手企業に依頼することが多いという声が多く聞かされてくる。市はもっと地元企業を育てる観点が必要ではないか。</p> <p>今回のような大きな指定管理でも、単独で対応できる事業者がなかったとしても、郡山市が主導となって、地域の子どものために地域の企業と知恵を出し合い協働でも良いのではないかと。さらにはこおりやま広域圏でも仕組みを紹介・導入できるような気概をもって地元企業を先導する郡山市であって欲しいと思う。</p> <p>「できそうなどころがないから大企業で」では地域の企業は衰退するばかりである。</p> <p>そして何よりも、郡山市と地域の企業が協力し合う姿は将来の郡山を支える子どもたちの見本となるだろうし、本当の意味での「地域との連携」になると思う。</p> <p>今回の候補者の選定については、個人的には、郡山の子ども達と将来の郡山にとって残念な結果になったと思う。3年後までに、郡山市の放課後児童クラブの本来あるべき姿を改めて行政・放課後児童クラブ・地域企業で連携をとりながら熟考して欲しい。</p>
8	滝田 良子 (会長)	郡山市子ども子育て支援企業組合 代表理事	有	<p>①「放課後子ども総合プラン」では子どもたちの安全で健やかな居場所づくりのため、市町村教育委員会が主導して福祉部局と連携を図るとあるが、今後もそれは変わらないか。</p> <p>②候補者が郡山市地元の事業者でないことから、地元に戻した方法での事業展開に課題を感じる。持続可能な放課後児童クラブの運営のため、指定管理者候補者から具体的な子どもの安全・安心な場所としての方策の説明が今後あるか。</p> <p>③児童の利用について、市はどのように関与していくか。（入所できなかった場合、要保護児童の入所選考）</p> <p>④支援員の資質向上のため指導員の巡回等により支援員のスキルを向上させ格差を解消すべきと思う。</p> <p>⑤子どもたちにとり、「おやつタイム」はとてもうれしいひと時だと思う。おやつの内容が単なる市販のものにならぬようお願いしたい。市はおやつの内容確認はどのようにするのか。</p> <p>⑥総括責任者は地元の事情に精通しており、学校の校長との連携が密にできることが重要だと思う。</p> <p>⑦市には事業の進捗管理の徹底を図ってほしい。</p>

第52回郡山市子ども・子育て会議（書面）委員からの意見と回答一覧

No.	委員氏名	役職等	議題 1 郡山市放課後児童クラブ指定管理者候補者の選定について（報告）	
			意見の有無	意見 回答
9	竹田 沙織	公募委員	無	
10	遠野 馨	NPO法人しんぐるべあれんとF・福島 理事長	有	指定管理者候補者の事業者は2021年に宇都宮市から「指定管理者として不適切」として指定を取り消されている。候補者として問題はないか。
11	橋本 ゆみ	福島県看護協会 専務理事	無	
12	濱津 真紀子	福島県弁護士会郡山支部 弁護士	有	候補者選定審議会委員として関わったが、放課後児童クラブの運営にふさわしい業者を候補者として選定できたと思う。当該候補者が指定管理者に指定された場合はサービスの質の確保及び向上を目指して、市が適切に監督・指示を行い、指定管理者と共に子どもにより良い活動の場を提供して行って欲しいと思う。
13	平栗 裕治 (副会長)	郡山市私立幼稚園・認定こども園連合会 顧問兼会長代行		
14	蛭田 さゆり	NPO法人郡山私立保育園連絡協議会 理事長	無	
15	福内 浩明	福内合名会社 代表社員	無	指定管理者候補者についての会社概要・企業情報がないためコメントできない。
16	安田 洋子	NPO法人郡山のびのび福祉会 理事長	無	
17	山上 裕子	郡山女子大学短期大学部幼児教育学科 教授	有	候補者選定審議会委員として厳正に意見を重ねた。
18	山田 祐陽	公益財団法人福島県栄養士会 管理栄養士	無	
19	山本 将司	郡山市PTA連合会 副会長	無	
20	渡邊 孝男	日本労働組合総連合会福島県連合会郡山地区連合事務局長	無	

第52回郡山市子ども・子育て会議（書面）委員からの意見と回答一覧

No.	委員氏名	役職等	議題2 郡山市希望ヶ丘児童センターの運営管理について（報告）		
			意見の有無	意見	回答
1	吾妻 利雄	郡山市認可保育所長会会長	有	郡山市子ども・子育て会議を希望ヶ丘児童センターの運営委員会と位置づけるのであれば、施設の見学も必要ではないか。	【こども政策課】 日程等を調整のうえ検討してまいります。 【こども家庭未来課】 日程等を調整のうえ、見学いただきたいと存じます。
2	佐藤 一夫	福島県ユニセフ協会 事務局長	無		
3	佐藤 広美	NPO法人 子育て支援コミュニティ ブチママン 理事長	無		
4	鈴木 綾	NPO法人 こおりやま子ども若者ネット ワーク 理事長	無		
5	隅越 誠	一般社団法人 郡山医師会 理事	無		
6	先崎 洋子	郡山市民生児童委員協議会 児童福祉活動部会部会長	無		
7	高橋 智樹	公募委員	無		
8	滝田 良子 （会長）	郡山市子ども子育て支援企 業組合 代表理事	無	子どもたちの居場所づくりとして工夫して運営されており、「意見・感想等」からも事業の豊かさや対応の良さがうかがえる。施設の見学を検討してはどうか。	【こども政策課】 日程等を調整のうえ検討してまいります。 【こども家庭未来課】 日程等を調整のうえ、見学いただきたいと存じます。
9	竹田 沙織	公募委員	無		
10	遠野 馨	NPO法人しんぐるべあれんと F・福島 理事長	無		
11	橋本 ゆみ	福島県看護協会 専務理事	無		
12	濱津 真紀子	福島県弁護士会郡山支部 弁護士	有	希望ヶ丘児童センターの運営委員会はこれまでに設置されていなかったか。もし、設置されていた場合、過去の活動実績に鑑みて子育て会議の開催頻度で対応が可能なのか。対応が可能というのであれば、子育て会議の構成員の専門領域から見て独自の運営委員会に代替しても問題ないと思う。	【こども家庭未来課】 令和3年度に、子ども・子育て会議を運営委員会の位置づけとし、審議いただくこととしました。子ども・子育て会議は、専門の運営委員会と同等の専門分野の委員にて構成されているため、委員ご指摘の通り問題ないことを、監査を行う福島県にも確認しております。
13	平栗 裕治 （副会長）	郡山市私立幼稚園・認定こ ども園連合会 顧問兼会長代行			
14	蛭田 さゆり	NPO法人郡山私立保育園連絡 協議会 理事長	無		
15	福内 浩明	福内合名会社 代表社員	無		
16	安田 洋子	NPO法人郡山のびのび福祉会 理事長	無		
17	山上 裕子	郡山女子大学短期大学部幼 児教育学科 教授	有	利用者アンケートの結果から運営管理の状況は良好と思われる。	【こども家庭未来課】 ご意見ありがとうございます。
18	山田 祐陽	公益財団法人福島県栄養士 会 管理栄養士	有	アンケートについて、利用者の8割が女性とのことだが、意見感想欄を見ると、子供と一緒に利用されてる方も多いうように感じる。利用人数や利用する子供の年齢もアンケートに加えるとさらにわかりやすいのではないかと思う。 また、自主事業の「登録制のランドセル来所」について教えてほしい。さらに、この事業について保護者の意見感想欄を設けることも検討いただけたらと思う。	【こども家庭未来課】 アンケート内容については、指定管理を行っている施設の間での調整が必要となるため、指定管理者制度統括担当課及び事業者へ意見を伝え、協議してまいります。 また、「ランドセル来所」については、放課後児童クラブとは異なり、こどもを預かる事業ではなく、児童の登録制により帰宅することなく児童センターの利用を可能とする制度であり、保護者の意見感想の集約については、事業者へ意見を伝え、協議してまいります。
19	山本 将司	郡山市PTA連合会 副会長	無		
20	渡邊 孝男	日本労働組合総連合会福島 県連合会郡山地区連合 事務局長	有	利用者アンケートの結果から運営管理の状況は良好と思われるが、今後も定期的な調査を継続してほしい。	【こども家庭未来課】 ご意見ありがとうございます。

No.	委員氏名	役職等	議題3 保育所等の待機児童の状況について（報告）		
			意見の有無	意見	回答
1	吾妻 利雄	郡山市認可保育所長 会長	無		
2	佐藤 一夫	福島県ユニセフ協会 事務局長	無		
3	佐藤 広美	NPO法人 子育て支援コミュニティ フチマン 理事長	有	<p>①待機児童の数にカウントされない子どもはとて多く、「保活」（自身の子どもを保育所に入れるため保護者が行う準備や活動）について保護者同士の情報交換や相談事が増えている。一方で、フソベや孤立育児で子育てをしているより保育所に預けて働いたほうが心も体も楽だという声も多く、保育サービスの拡充もあり、子どもを保育所に入所させたい保護者が増えていると思われる。</p> <p>②保育士の雇用環境全般の改善、人材の確保の為、効率化の観点からコストと時間はかかるが、更にICTシステムを活用し労働時間の軽減を図ってはどうか。</p>	<p>【保育課】 ①ご意見等ありがとうございます。</p> <p>②これまでも、保育業務支援システムの活用などにより保育士の負担軽減を図ってまいりました。今後も、より一層のシステムの機能活用を図るなどICTシステムを活用し、保育士の負担軽減を図ってまいります。</p>
4	鈴木 綾	NPO法人 こおりやま子ども若者ネット ワーク 理事長	無		
5	隅越 誠	一般社団法人 郡山医師会 理事	無		
6	先崎 洋子	郡山市民生児童委員協議会 児童福祉活動部会会長	有	<p>経済的理由から働く女性が増えたことで、一定の保育所に入所希望者が集中しているような。育児休業を取得するよう進めている事業者も増えているので、施設数は現状維持でいいかと思う。</p>	<p>【保育課】 ご意見等ありがとうございます。</p>
7	高橋 智樹	公募委員	無		
8	滝田 良子 (会長)	郡山市子ども子育て支援企 業組合 代表理事	有	<p>令和4年から今年度の入所希望児童数の推移を見ると待機児童が増加傾向にあるが、要因はなにか。特に0歳、1歳児についての対策をどのように考えるか。</p>	<p>【保育課】 社会的要因としては、コロナが終息しつつある中、有効求人倍率が増加傾向にあること、また、物価高騰により家計が圧迫されていることなどの理由から、働く女性が増加傾向にあるため、少子化であっても保育所利用のニーズが高まっていると考えられます。厚生労働省によると令和7年を利用児童数のピークと考えており、郡山市も同様の傾向であると考えます。</p> <p>また、対策として、幼稚園から認定こども園へ、認可外から小規模保育事業所への移行支援による3歳未満時の定員確保、潜在保育士の掘り起こしや補助金等による保育士支援などの保育士確保、保育コンサルシユなどによる保護者のニーズ聞き取りとマッチング支援などが考えられ、現在、各種施策を進めているところであります。</p>
9	竹田 沙織	公募委員	無		
10	遠野 馨	NPO法人しんぐるべあれんと F・福島 理事長	無		
11	橋本 ゆみ	福島県看護協会 専務理事	無		
12	濱津 真紀子	福島県弁護士会郡山支部 弁護士	無		
13	平栗 裕治 (副会長)	郡山市私立幼稚園・認定こ ども園連合会 顧問兼会長代行	無		
14	蛭田 さゆり	NPO法人郡山私立保育園連絡 協議会 理事長	有	<p>待機児童数は減っていると思うが認可外の保育園にも多くの子どもが認可保育所の空きが出るまでに入園している。特に1歳児の待機が多いと思う。保育所に預ける時期が1歳すぎが多く、その年齢が入所できずに待機児童になってしまう傾向がある。1歳児が入所できる枠を拡大しないと解消できないと思う。</p>	<p>【保育課】 対策として、幼稚園から認定こども園へ、認可外から小規模保育事業所への移行支援による3歳未満時の定員確保、潜在保育士の掘り起こしや補助金等による保育士支援などの保育士確保、保育コンサルシユなどによる保護者のニーズ聞き取りとマッチング支援などが考えられ、現在、各種施策を進めているところであります。</p>
15	福内 浩明	福内合名会社 代表社員	無		
16	安田 洋子	NPO法人郡山のびのび福祉社 理事長	有	<p>国基準29名に対し、実際の継続入所希望359名は5年間で最も多くなっているが、この数字が表す保育ニーズへの具体的な課題を明確にし、次の対策に生かしていく必要がある。</p> <p>①認可保育施設に申し込みをしたが、入所できなかった理由及びその件数を具体的に示してほしい。（例：希望する施設ではなかった、現在認可外を利用するため、育児休業を延長するためなど）</p> <p>②市内認可保育施設空き状況一覧では、各地域とも若干空いている施設があるがマッチング率や入所できなかった場合の保護者の希望や意見を示してほしい。</p> <p>③今後の会議においても上記①②の報告をお願いしたい。</p>	<p>【保育課】 ①市民で施設利用できていない家庭保育の児童は94名です。（そのほかの継続入所希望者の内訳は以下のとおり） ・ 育休延長希望39名 ・ 認可からの転所希望61名 ・ 幼稚園、認可外、一時預かり利用134名 ・ 広域入所（他市町村からの）申し込み25名 ・ 空き待ち（翌月に申込繰り越し）希望なし6名</p> <p>②・ 8月に入所した児童数56名 ・ 6月末に8月入所の空き状況を公表している施設53施設（89施設中） ・ 8月に児童が入所した施設40施設（89施設中） ・ 施設マッチング率75.5%（40/53） ・ ウェブ、電話、窓口等で空き状況をお知らせしているが、北部地区やこども園などの特定の施設を希望する方が多く、マッチングに至らないケースがあります。</p> <p>③報告の件承知いたしました。</p>
17	山上 裕子	郡山女子大学短期大学部幼 児教育学科 教授	無		
18	山田 祐陽	公益財団法人福島県栄養士 会 管理栄養士	無		
19	山本 将司	郡山市PTA連合会 副会長	有	<p>令和5年度に待機児童（特に1歳児）が増加している要因はなにか。人口の増加、経済的な問題なのか。</p>	<p>【保育課】 社会的要因としては、コロナが終息しつつある中、有効求人倍率が増加傾向にあること、また、物価高騰により家計が圧迫されていることなどの理由から、働く女性が増加傾向にあるため、少子化であっても保育所利用のニーズが高まっていると考えられます。厚生労働省によると令和7年を利用児童数のピークと考えており、郡山市も同様の傾向であると考えられます。</p>
20	渡邊 孝男	日本労働組合総連合会福島 県連合会郡山地区連合 事務局長	無		

第52回郡山市子ども・子育て会議（書面）委員からの意見と回答一覧

No.	委員氏名	役職等	その他		自由記載	
			意見の有無		意見	回答
1	吾妻 利雄	郡山市認可保育所長 会長	無			
2	佐藤 一夫	福島県ユニセフ協会 事務局長	無			
3	佐藤 広美	NPO法人 子育て支援コミュニティ ブチママン 理事長	無			
4	鈴木 綾	NPO法人 こおりやま子ども若者ネット ワーク 理事長	無			
5	隅越 誠	一般社団法人 郡山医師会 理事	無			
6	先崎 洋子	郡山市民生児童委員協議会 児童福祉活動部会部会長	無			
7	高橋 智樹	公募委員	有	今回の会議は書面開催だが、どのような点で効率的な運営ができないと判断したのか。今後も、多くの意見がでるような議題や意見交換があるべき議題ではこのような書面開催になるか。 子ども・子育て会議は、市の子育て支援施策の推進プロセスに関与し、行政と一体となって各事業の充実を図ることを目的としていると思う。報告を受けるばかりでなく、今回のように事前に意見を出し合い、それを集約して頂いて、実際対面で意見を交換し合い、それらの声が郡山の子どものための事業に反映されることを望む。	【こども政策課】 今回は議題が報告事項のみであったことから、書面開催が適していると判断し、会長と副会長に書面開催の可否について協議し、実施したものであります。 協議事項が多いなど意見のやり取りや積み重ねが必要なものはこれまでどおり対面により開催してまいります。 今後とも、会議の開催方法については会長をはじめ委員の皆様のご意見をいただきながら効果的かつ効率的なものになるよう努めてまいります。	
8	滝田 良子 (会長)	郡山市子ども子育て支援企業組合 代表理事	無			
9	竹田 沙織	公募委員	有	小学校の給食費無償化は大変ありがたい。給食費支払が毎月ない分、子供に好きな習い事をさせている。		
10	遠野 馨	NPO法人しんぐるべあれんと F・福島 理事長	有	市立小学校通う女子児童が別の児童に脚を蹴られてけがを負うなどのいじめを受けた問題についてだが、最近陰湿ないじめが増えているように思う。 ①今回どのように調査が行われたか ②加害児童、被害児童へどのような対応をするのか。 ③以前にもいじめによりけがをしたケースがあったが第三者委員会が設置されることはなかった。けががどの程度でいじめを受けた期間がどの位だと「重大事態」として認められるのか。 ④いじめによる重大事態が発生した時の対応を教職員は理解しているのか。	【学校教育部】 ①教育長がいじめ問題調査委員会に以下の内容について諮問する予定であります。 ・本いじめ事案の事実関係を明確にするための調査 ・市全体のいじめによる重大事態の再発防止についての助言 ②子どもたちが安心して生活し、授業が受けられるようにするための配慮をし、2学期を迎えました。 ③いじめ防止対策推進法第28条第1項（※）に示されている事態を重大事態と捉えております。（抜粋） 一 いじめにより当該学校に在籍する児童等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。 二 いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。 ④いじめの疑いが発生した場合、重大事態が発生した場合の対処法を示した「『いじめ防止対策推進法』及び『郡山市いじめ防止基本方針』に基づくいじめ対応フロー図」を令和5年4月4日に市立学校に送付し、全職員に周知するよう校長に依頼しております。	
11	橋本 ゆみ	福島県看護協会 専務理事	無			
12	濱津 真紀子	福島県弁護士会郡山支部 弁護士	無			
13	平栗 裕治 (副会長)	郡山市私立幼稚園・認定こども園連合会 顧問兼会長代行				
14	蛭田 さゆり	NPO法人郡山私立保育園連絡協議会 理事長	有	認可外保育所の「保育補助者」雇い入れへの助成が認可外保育施設にはなく、運営において非常にゆとりがないと感じる。ぜひ、認可外保育施設にも保育補助者雇い入れの助成金を市から出してほしい。次回の子ども・子育て会議において改めて発言する予定である。	【保育課】 私立保育園連絡協議会を通じ、適切な保育環境の確保と質の向上を図るため、運営費や研修費の支援を実施しているところであり、市の財源も限られているのが現状です。今後、慎重に検討していく必要がありますが、現時点での支援は難しいと考えております。	
15	福内 浩明	福内合名会社 代表社員	無			
16	安田 洋子	NPO法人郡山のびのび福祉会 理事長	無			
17	山上 裕子	郡山女子大学短期大学部 幼児教育学科 教授	無			
18	山田 祐陽	公益財団法人福島県栄養士会 管理栄養士	無			
19	山本 将司	郡山市PTA連合会 副会長	無			
20	渡邊 孝男	日本労働組合総連合会福島 県連合会郡山地区連合 事務局長	無			